

議事概要及び意見交換での主な意見等

意見交換「これまでの振り返りと2040年に向けた取組の方向性について」

概要

事前アンケート結果等を参考に、①「これまでの取組を振り返って評価できる点、改善すべき点はどのような事項か」、②「これまでの取組と評価を踏まえ、今後どのような取組を具体的に進めるべきか、取組を協議する場や参加する職種はどのようにするのがふさわしいか」について、参加する各区市町村のメンバーで事前に議論及び意見集約を行い、圏域内で報告及び意見交換を実施

意見

①について

- 在宅医療を受ける高齢者は、**複数の疾患や独居、老老介護、生活困難等多様化、複雑化**している。患者の特徴の情報共有など、**多職種が連携**することがより一層必要。
- ICTを活用した情報共有が進んでいるが、**地域や職種間等の利用格差**があり、普及には至っていない。更なる利用促進及び**デジタルデバイドの解消**が必要。
- 介護人材の不足によって自宅での生活が継続できず、施設への入所を余儀なくされるケースがある。**介護人材の確保は喫緊の課題**である。
- サービスの内容等が**支援者本位**ではなくて、**患者のための本来のサービスの使い方**であるのかということを常に多職種の中でも問い合いながら対応することが大事。
- 在宅医療・介護連携の取組**について有効な取組だったかが分かりにくい、**結果として改善されているのか、進んでいるのか評価**ができない。

②について

- 会議体など顔の見える関係はあるが、そこで出た意見を、**地域向けの施策に反映**していけると良い。
- 様々な統計調査の分析に基づき、**地域の特性を踏まえて在宅医療の現状と将来の課題**について議論することが重要。
- 患者家族への支援も重要**であり、患者家族に対してどのような体制で在宅で診ることができるのかといった情報の啓発をすることも重要。
- 「**在宅療養において積極的役割を担う医療機関**」という制度をうまく使い、今後新たな取組ができると良い。
- 多職種と連携し、誤嚥性肺炎等の**オーラルフレイルの予防等の口腔ケア**に取り組んでいきたい。